

## はじめに

昨年3月の東日本大震災から1年以上が過ぎ、日本は復興の歩みを進めています。この震災に際し、日本は開発途上国を含む国際社会から様々な形で支援を受けました。本報告書でもコラムのコーナーで幾つかの例を紹介しているように、ODA評価調査を通じて、日本からの援助を受けた方々が、義援金の募金活動を行った例や、かつての本邦研修員からお見舞いが多数寄せられたといった例に触れることができました。このことは、日本が長年誠実に実施してきた国際協力が各国で高く評価され、日本との絆が着実に築き上げられているという事実の現れと考えています。

東日本大震災を経験し、また、厳しい経済・財政事情にある中、ODAの実施にあたっては、納税者である国民の皆様の御理解を得ることが不可欠です。このため、限られた予算の中でより効率的かつ効果的にODAを実施する努力がこれまで以上に求められており、同時にODAの透明性や説明責任をしっかりと果たしていくことも必要です。

昨年4月、外務省はODAの評価部門の独立性を強化し、評価の客観性を高めるために、それまで国際協力局にあった評価部門を大臣官房に移し、ODA評価室を設置しました。また、評価の結果につき、国民に広く情報を開示し、議論の材料を提供することができるように、分かりやすい評価の実施を心がけています。さらに、評価結果については、ODA実施の改善や新たな案件形成に役立てるようにフィードバックの徹底にも取り組んでいます。

このように、国民の皆様に対する説明責任を果たし、より広くODA評価を理解していただくために、外務省は、毎年、政府全体のODA評価活動を概観する年次報告書を発行しています。本年度の報告書では、第1章で日本及び国際社会におけるODA評価の動向を概説し、第2章で主に2011年度に外務省、関係府省庁及びJICAがそれぞれ実施した評価結果の概要を紹介しています。また、第3章には、2010年度の外務省によるODA評価結果に対するフォローアップ状況を掲載しています。

本報告書により、読者の皆様が日本のODAとその評価に対する理解を一層深めて頂く一助になれば幸いです。

2012年10月

官房長 **越川 和彦**

## 〈表紙写真説明：2011年度外務省による評価から〉

### 「研修員受入事業の評価」



#### 帯広市立稲田小学校での研修員と小学生の交流授業

JICAの国内拠点では、域内の小・中・高など学校の生徒及び教員を対象に、海外から受け入れた研修員の学校訪問を実施し、研修員による母国の文化や遊びを紹介することなどを通じて、異文化の交流が図られています。こうした交流を通じて、生徒や地元住民の国際協力への理解や関心が高まっています。

### 「水産無償資金協力資金協力に関する評価」



#### バーブーダ島零細漁業施設整備計画による水産コンプレックス

日本は、これまでアンティグア・バーブーダで4件の水産無償事業を実施しており、水産物の水揚げ・流通・加工を行う水産複合施設を建設しています。コドリントン水産複合施設は、バーブーダ島からのロプスター輸出の衛生管理の改善やアンティグア島に向けて流通される鮮魚の水揚げを主な目的に、2011年に建設されました。

### 「ペルー国別評価」

ペルーでは、ガルシア前政権が「万人に水を」を重点政策目標の1つとし、水供給及び衛生改善への支援は、医療保健状況の向上にも貢献するものとされてきました。日本もリマ首都圏及び地方において、この分野への支援を行っています。



#### ワチバ浄水場の建設

ペルー沿岸部は砂漠気候にあたり、年間降水量が約10mmと少ない上、地方からの人口流入により、リマ首都圏は従来から乾季の水不足が懸念されてきました。こうした給水人口の増加に対応するため、日本はリマ上下水道公社を通じてワチバ浄水場の建設を援助し、2011年7月に完成しました。



#### 幼稚園における衛生教育

日本は、ペルー北部のピウラ州・ランバイエケ州において地方給水及び衛生改善を目的として「北部地域給水・衛生事業組織化プロジェクト」を実施しています。この中で住民の衛生教育として、州政府住宅衛生局の職員が幼稚園で手洗い教育を行うなど、住民への衛生啓発も行っていきます。